



素敵なおばあちゃん  
になりたいな

井上 日南子  
From ボツワナ

認知症で、数分前のことは忘れる一方、昔話をよくするようになった祖母。「ヨシオ（父）はヤギの乳で育ったで、赤ちゃんの時はヤギ臭かったよ」、「冬場、小学校には暖をとるための木枝を持って行っていた」そんな話をするようになった。

久しぶりに実家に帰って布団の上でダラダラしていたとき、「あなたの先祖が不足（不満）に思ってやで」と急に怒られて、慌てて起きたことがある。先祖が不足に思うなんて、なんて祖母らしい目の付け所なのだろう。祖母の話にはハッとさせられることが多い。

祖母の発言や昔話をノートに記録するようになってもう5年ほど経った。後どれだけ祖母の話に耳を傾けられるだろうか。上京したり、海外で過ごしたりしている私は祖母と過ごす時間が少なくなっているが、私の人生に対する考えには、間違いなく祖母の存在が大きく影響している。

戦争時代を生きた祖母と話していると、やはりその時代の人とは「生きる」という考えが違ってくるように思う。野菜のこと、お花のこと、水の大切さ、言い伝えや方言も、私はぜんぶ祖母から学んだ。

私が小学一年の時、母が手術することになり、父は母が入院していた大阪に行ってしまった。その時、なぜか弟までが入院して、私は祖母と二人で何日か過ごすことになったが、今度は私まで風邪をひいてしまって、学校を休むことになった。

一週間ほど祖母が看病してくれたが、母が帰宅したとたん私の熱は下がって元気になってしまった。その時のことを、祖母が後に、「やっぱりお母さんには敵わんのやなあ」と笑いながら話していたのを聞いて胸が痛くなった。祖母のことも大好きなのになって。



ナミビアで知り合ったヒンバ族の女性と



ナミブ砂漠↑

ケニア入境↓



これまでアジア、中東、アフリカ、北南米を

含め世界50カ国を訪問

母は私が10歳の時に他界した。それからは、祖母が母親代わりになって私を育ててくれた。私はそのことにとっても感謝している。どんなに成績が良かろうと、社会の進歩に乗っかろうと、祖母にとっては、私が元気であればそれでいい。たまに先祖のことを思うと、心が和んで、人に優しくしたり、自分のことを認められたりする。平和って、心の中に作るものだとつくづく感じる。

私が世界を旅行したり、異なる国の人との間に友情が生まれたり、今生きている世界は、私の先祖の犠牲の上で成り立っていると思う。だから今日を生かさせてもらえることや自分が幸福に明日へ期待できる平和に感謝して、自分の命を輝かせたい。そして自分も将来は素敵なおばあちゃんになりたいな。

<経歴>

- 2016年 高知大学入学
- 2017年 休学  
バックパッカー世界36カ国訪問
- 2018年 カザフ国立大学留学
- 2021年 高知大学卒業/ディップKK入社
- 2023年 豪州ワーキングホリデー
- 2024年 JICA 海外協力隊ボツワナ派遣

KOCHI IYEO HP



2024年7月5日発行  
発行者  
高知県青年国際交流機構  
(KOCHI IYEO)  
会長 前田正也

☎ 090-9552-0022

✉ xiwang@yacht.ocn.ne.jp